



大成小だより

郡山市立大成小学校

2019年12月11日

第10号

発行責任者 柳沼 啓之

いよいよ今学期もあと2週間となりました

月日の過ぎるのも早いもので、今学期もあと2週間ほどとなりました。現在、子どもたちは2学期のまとめに一生懸命に活動しております。また、お忙しいなか教育相談にお越しいただきありがとうございました。保護者の皆様のご協力に感謝申し上げます。

オンラインゲーム、SNS等の子どもたちを取り巻く環境 わが子は大丈夫でしょうか

11月20日(水)に郡山第一中学校区の先生方、学校医、PTA関係者が集まり、学校保健委員会が開催されました。その話し合いの中で、どの学校でも、スマホ、オンラインゲーム、SNS等の子どもたちへの心と体への影響がとても心配されるとの意見が多数出されました。また、SNSを介しての児童誘拐の報道もあり、子どもたちを取り巻くネット環境がとても心配されます。

〈身心への影響〉

国立病院機構久里浜医療センターの報告による

- 時間が長いほど 学業、仕事に悪影響が出てやめられない。
- 趣味や友達に会うなど大切な活動への興味が著しく下がった。
- 視力の低下、腰痛や目の痛みなど体の問題が起きてやめられない。 等々

〈SNS、オンラインゲームに潜む悪意〉

- SNSのやりとりで知らない大人と出会い事件に巻き込まれるケースは後を絶たないこと。
※ 昨年度の子どもの被害は、小、中、高生で1800人となっており、人ごとではないこと。
- ① フィルタリング機能を利用するのはもちろんであるが、効果は限定的であり、過信できないこと。
- ② ネット上で良い人と悪い人を見分けるのは大人でも至難の業であること。
- ③ いじめや仲間はずれなどのトラブルが発生しやすく、発生した場合、解決が難しいこと。
- ④ 心と体に悪影響があること。 等々

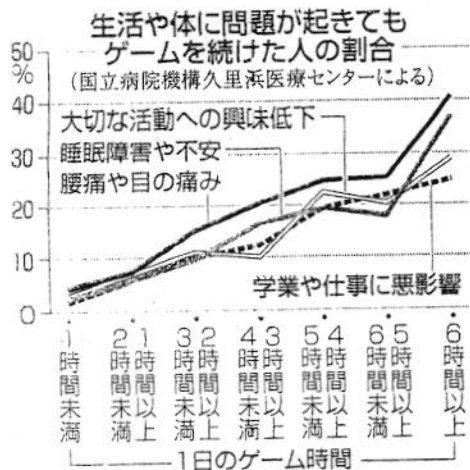
ネットやICTは、正しい使い方をすればとても便利なツールであります。その反面、数えきれないほど、心配されることがあります。私たち大人はさらに危機意識をもたなければならないと思います。

郡山市内の学校でも多くのトラブルが発生しています。他人事では、なくなっています。

今、本当に子どもに必要なのか？どのくらいの時間を使っているのか？家族、大人が知らないところで何かが起こっていないか？健康は大丈夫なのか？など 子どもの現状を確認いただき、家庭では、これからどのようにしていけばよいのかを話し合ってください。活用する場合は、保護者の責任で監視のもと、約束を決めて、安全に活用するようにお願いいたします。

若者3割、ゲーム2時間超

〈資料〉



時間が長いほど…学業、仕事に悪影響

全国の十〜二十九歳の約33%が一日当たり二時間以上オンラインゲームなどをしており、時間が長い人ほど、学業や仕事への悪影響や、体や心の問題が起きやすい傾向にあったとの調査結果を、依存症の専門治療を行う国立病院機構久里浜医療センター（神奈川県横須賀市）が二十七日、発表した。ゲームと生活習慣の実態を全国規模で調べたのは初めて。ゲームのやり過ぎで日常生活が困難になる「ゲーム障害」の検査法や治療の指針作りに活用される。

専門機関が初調査

世界保健機関（WHO）は今年五月、「三時間未満」は14.6%だった。「三時間以上」は18.3%で、この中には六時間以上も2.8%いた。男性が女性より長時間ゲームをしていた。「趣味や友達に会うなど大切な活動への興味が著しく下がった」と答えたのは6.8%の十〜二十九歳の男女で、四時間以上ゲームを九千人を対象に実施した。ゲームによって、五千九十六人が回答。過去十二カ月間に学業や仕事に悪影響が85.0%がスマートフォンやパソコン、ゲーム機を使ってゲームをしていた。問題が生じている割合は、全体としてゲーム時間が長くなるほど高く、二時間を境に大きく増えた項目が複数あった。平日一日当たりの時間ももっとも多いのは「二時間未満」で40.と答えた。

「ゲームによって、五千九十六人が回答。過去十二カ月間に学業や仕事に悪影響が85.0%がスマートフォンやパソコン、ゲーム機を使ってゲームをしていた。問題が生じている割合は、全体としてゲーム時間が長くなるほど高く、二時間を境に大きく増えた項目が複数あった。平日一日当たりの時間ももっとも多いのは「二時間未満」で40.と答えた。」

(新聞記事より)

子どものSNS被害を防ぐポイント

- 家庭でスマホを使う場所や時間などをルール化する
- 名前や顔写真、学校名などは載せない
- トラブルが起きたら、すぐに相談する親子関係をつくる
- ネット上は性別や年齢、性格などを簡単に偽装できると説明する
- ネットで知り合った人と会うのは、リスクが伴うことも教える
- 子どもが被害に遭った実際のネット・犯罪を具体的に伝える
- フィルタリング機能を利用する。効果は限定的なので過信しない
- SNSには「悪い大人」がいることを説明する
- 不安になったら親に相談するように伝える
- 子どもの投稿を閲覧できる人を制限する
- ダイレクトメッセージでやり取りさせない

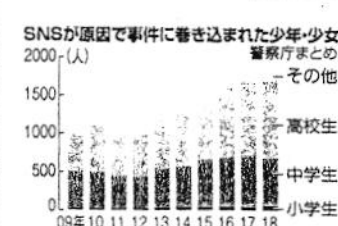


「頼れそうな大人」 SNS 潜む悪意

警察庁によると、昨年にSNSを通じて事件に巻き込まれた18歳未満の子どもは1811人で、統計を取り始めた2008年以降で2番目に多かった。近年は小学生の被害が増えており、昨年は過去最多の55人。中学生は624人、高校生は991人だった。被害者が使ったSNSは「ツイッター」が最多の718人。学生限定のチャット型交流サイト「ひまわり」214人、「LINE」80人、チャットアプリ「マリオンチャット」78人、動画配信サービス「ツイキャス」46人だった。有害情報を見ることができないようにするフィルタリングの利用の有無を調べられた1559人のうち1972人（88%）が利用していなかったという。

子ども被害1800人 小学生は最多更新

大阪市の小学6年の女児（12）が行方不明になり、栃木県小山市内で保護された事件で、未成年者誘拐の疑いで逮捕された伊藤仁吾容疑者（35）はSNSを通じて女児に接触し誘拐出したとされる。子どもがSNSのやりとりで知らない大人と会い、事件に巻き込まれるケースは後を絶たない。どう防げばよいのか。



兵庫県立大の竹内和雄准教授